

論文

小・中・高校生の「運動・スポーツ」と「体育」授業の意識に関する研究 (1) — 「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌との関連性に着目して —

○國木孝治*1 俵 尚平*1

キーワード：運動・スポーツ、体育授業、好き・嫌い、得意・不得意、小学生、中学生、高校生

1 研究に至る背景と目的

1.1 はじめに

2008-2009（平成 20-21）年に改訂された小学校・中学校・高等学校の（現行）学習指導要領においては、運動する子どもとそうでない子どもの二極化や、子どもの体力の低下傾向が依然深刻であること等が挙げられ¹⁾、運動・体育領域において歯止めを掛けることが大きな課題とされていた²⁾³⁾⁴⁾。

続いて、2017-2018（平成 29-30）年に改訂された小学校・中学校・高等学校の（新）学習指導要領においては^{註1)}、運動やスポーツが好きな児童・生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったこと等が挙げられ⁵⁾、従前の学習指導要領改訂から一定の成果があげられたと評価している。他方、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が依然みられることや、子どもの体力低下傾向に歯止めは掛かったものの、体力水準が高かった 1980（昭和 60 年）代頃と比較すると依然低い状況がみられる等の指摘が挙げられている⁶⁾⁷⁾⁸⁾。

ところで、著者が居を構える山口県萩市は、人口 47,862 人が暮らす⁹⁾、全国的には人口の少ない街である（2018（平成 30）年 9 月末現在^{註2)}）。10 年前の同市人口（2007 年 9 月末：57,704 人）と比較すると約 10,000 人の人口減（約 17%減）であり、この内 5 歳から 19 歳迄の年齢別人口は 7,106 人から 5,053 人に減少しており（約 29%減）、急速に過疎化が進んでいる地域でもある。

反面、萩市では、学校教育や地域活動として年間を通じた様々な文化・スポーツ活動の取り組みをしており、上述の全国的な課題であった運動する子どもとそうでない子どもの二極化や、子どもの体力の低下傾向とは異なった傾向があるように感じており、加えて、運動やスポーツ好きの子どもの割合が多いように思われる。

1.2 先行研究の検討

運動やスポーツの好き・嫌い、得意・不得意や、体育の好き・嫌い、得意・不得意、子どもの運動やスポーツに費やされる時間等に関する諸研究は、散見するだけでも研究の蓄積がみられる¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾。

これら諸研究の特徴について、吉川らによると¹⁰⁾、①実態について、②要因について、③その他（指導法等）に大別されるとしている。この内、①実態については、運動やスポーツが嫌いよりも、体育が嫌い或いは不得意が多く存在し、その傾向は男子よりも女子に多くみられる。加えて、運動やスポーツ、体育が嫌いという回答する傾向は、学年が進行するにつれて増加傾向にあり、男子よりも女子が高いと報告している。なお、②要因については、教師が主要な要因として挙げられており、教師の行動に着目した研究もみられる¹¹⁾。

しかしこれら諸研究の多くは、小学校、中学校、高等学校といった教育段階内での実態調査であり、小学校から高等学校までの児童・生徒を対象とした横断的な研究は限られ、データの蓄積が課題であると言える。

*1 至誠館大学 ライフデザイン学部

1.3 本研究の目的と課題

以上の検討を踏まえたうえで本研究では、山口県萩市における小学生から高校生までの延べ12学年を対象とし、「運動・スポーツ」に対する好嫌と、「体育」に対する好嫌、得意不得意の実態について、横断的に明らかにすることを目的とした。

具体的には、先行研究から得られた知見として、

- (1) 運動やスポーツ、体育が嫌い或いは苦手と回答する傾向は、学年が進行するにつれて増加傾向にある
 - (2) (1)の傾向は、男子よりも女子に多くみられる
 - (3) 運動やスポーツが嫌いよりも、体育嫌いが多く存在している
 - (4) (3)の傾向は、男子よりも女子に多くみられる
- 以上について、萩市児童・生徒の傾向を明らかにすることを課題とした。

2 研究の方法

2.1 「運動・スポーツ」「体育」の定義の明確化

「運動・スポーツ」「体育」の定義の明確化について、既に専門的な論文や諸研究者により吟味されている。しかし、本研究では小学校1年生から高校3年生までの学校、学年、年齢層を横断的に調査するため、簡素で且つ分かり易く解釈する必要があり、以下のように定義づけした。

- ・「運動・スポーツ」：体育の授業以外で行う運動やスポーツ（例えば、放課後や土日に行うクラブ活動、習い事のスイミングや陸上教室、スポーツ少年団など）
- ・「体育」：体育の授業で行う運動（例えば、体育の時間に行うマット運動や水泳、陸上運動（陸上競技）、ボール運動（球技）など）

2.2 質問紙による調査（留置調査）

本研究では、質問紙による調査を実施した。

なお、調査対象が小学校1年生から高校3年生迄の延べ12学年に渡る幅広い年齢層であるため、質問紙による項目をできるだけ少なくすることで、学校や児童・生徒に負担がかからないよう配慮した。具体的には、基礎情報を含む全7項目とした。

調査の実施について、質問紙はあらかじめ各学校単位で配布し、それぞれの学校または学年、クラスの都合の良い学級活動やホームルームの時間等を活用して児童・生徒に直接記入してもらい、一定の期間を経て回収する留置調査法とした。

なお、質問紙は全学年において同文章、同内容としたが、調査対象者年齢が幅広いため、小学生への質問紙については質問項目全ての漢字にふりがなを振り対応した。

2.3 調査期間

質問紙は児童・生徒数に加えて教員分の枚数を用意し、2018（平成30）年6月から7月にかけて直接各学校長に手渡した。

回収は、児童・生徒の夏休み期間終了後の2学期始め、各学校の都合に合わせて2018（平成30）年9月第1週から10月第1週にかけて行った。

2.4 調査対象者

山口県萩市内の公立学校の内、本調査の承諾が得られた小学校3校（児童数延べ1,334名）、中学校2校（生徒数延べ715名）、高等学校2校（生徒数延べ804名）、計2,853名の児童・生徒に対し、質問紙調査を実施した。

回収数は小学校1,182名、中学校667名、高等学校699名、計2,548名。有効回答数（率）については、小学校1,131（84.8%）、中学校661（92.4%）、高等学校696（86.6%）、計2,488（89.0%）であった。詳細については以下（表2-1）のとおりである。

表 2-1 有効回答数の内訳

		有効回答数			
		男子	女子	学年計	学校計
小学校	1年生	46	74	120	1,131
	2年生	62	68	130	
	3年生	121	113	234	
	4年生	99	123	222	
	5年生	107	99	206	
	6年生	111	108	219	
中学校	1年生	110	118	228	661
	2年生	105	104	209	
	3年生	112	112	224	
高等学校	1年生	144	138	282	696
	2年生	124	122	246	
	3年生	117	51	168	
総計		1,258	1,230	2,488	

2.5 調査の内容

基礎情報の2項目については、学年、及び性別について聞いた。

問1は「運動・スポーツ」の好嫌について聞き、「とても好き」「どちらかといえば好き」「どちらかといえば嫌い」「とても嫌い」の4段階尺度で回答してもらった。なお、集計にあたっては、肯定的な回答である「とても好き」「どちらかといえば好き」を『運動・スポーツ好き群』とし、否定的な回答である「どちらかといえば嫌い」「とても嫌い」を『運動・スポーツ嫌い群』としてまとめた。

問2は「体育」の好嫌及び得意不得意について聞き、「得意だし好き」「得意じゃないけど好き」「得意だけど嫌い」「不得意だし嫌い」の4段階尺度で回答してもらった。なお、集計にあたっては、肯定的な回答である「得意だし好き」「得意じゃないけど好き」を『体育好き群』、否定的な回答である「得意だけど嫌い」「不

得意だし嫌い」を『体育嫌い群』としてまとめた。

問3及び問4では、問2の回答に対し肯定的な回答をした被験者と否定的な回答をした被験者に分け、それぞれの理由を語群の中から選択（複数回答可）してもらった。尚、語群内容については本調査実施前に他校において予備調査を実施し、回答の多かった語彙を採用、その他に回答がある場合はカッコを付し自由記述してもらった。

問5では、学校の授業以外の運動時間について1週間にどのくらい活動しているかを、5項目（①0分、②1～70分、③71分～210分、④211分～420分、⑤421分以上）^{註3)}の中から選択してもらった。

2.6 分析方法

質問紙による質問項目は基礎情報を含む全7項目である。本研究ではこの内、基礎情報2項目と、質問項目2問（①「運動・スポーツ」の好嫌、②「体育」の好嫌）についてクロス集計を行い、その差異について、学年別、男女別の比較検討を行った。なお、統計処理にはSPSS Statics Ver.25を用い、その際の有意水準は5%とした（ $p < 0.05$ ）。

3 結果と考察

3.1 「運動・スポーツ」の好嫌の実態

表3-1は、「運動・スポーツ」の好嫌について、『運動・スポーツ好き群』と『運動・スポーツ嫌い群』にグループ化した結果を、学年、性別で比較したものである。なお、図3-1は『運動・スポーツ嫌い群』のみを抽出しまとめたものである。

学年別では、小学校1年生、2年生、5年生、6年生、中学校2年生、高等学校1年生、2年生、3年生において、『運動・スポーツ嫌い群』よりも『運動・スポーツ好き群』の割合が高い。

性別では、女子よりも男子のほうが『運動・スポー

『スポーツ好き群』の割合が高かった。

他方、女子の『運動・スポーツ嫌い群』の傾向については、小学校低学年(1年生から2年生)、中学年(3年生から4年生)、小学校5年生から中学校2年生にかけて、さらに高等学校においては1年生から2、3年生になるにつれて、嫌いと回答した割合が高くなっている。

男子については、小学校1年生(2.2%)、小学校5年生(6.5%)、中学校2年生(5.7%)において、『運動・

スポーツ嫌い群』の値が他の学年に比べ低かったことが挙げられるが、その他特徴的な傾向を示す点はみられなかった。

標本全体の特徴としては、男女ともに『運動・スポーツ好き群』の割合は『運動・スポーツ嫌い群』よりも高く、『運動・スポーツ嫌い群』の割合は男子よりも女子のほうが高かった。

表3-1 「運動・スポーツ」の好嫌(学年別男女比)

学校/学年	性別	運動・スポーツ好き群 (%)	運動・スポーツ嫌い群 (%)	N.A (%)	計	χ^2 値
小1	男子	45 (97.8)	1 (2.2)		46	4.381 *
	女子	64 (86.5)	10 (13.5)		74	
	計	109 (90.8)	11 (9.2)		120	
小2	男子	56 (90.3)	6 (9.7)		62	2.198 *
	女子	56 (82.4)	11 (16.2)	1 (1.5)	68	
	計	112 (86.2)	17 (13.1)	1 (0.8)	130	
小3	男子	105 (86.8)	16 (13.2)		121	1.131
	女子	96 (85.0)	16 (14.2)	1 (0.9)	113	
	計	201 (85.9)	32 (13.7)	1 (0.4)	234	
小4	男子	87 (87.9)	12 (12.1)		99	2.205
	女子	99 (80.5)	24 (19.5)		123	
	計	186 (83.8)	36 (16.2)		222	
小5	男子	100 (93.5)	7 (6.5)		107	4.799 *
	女子	83 (83.8)	16 (16.2)		99	
	計	183 (88.8)	23 (11.2)		206	
小6	男子	96 (86.5)	15 (13.5)		111	4.150 *
	女子	81 (75.7)	26 (24.3)		107	
	計	177 (81.2)	41 (18.8)		218	
中1	男子	93 (84.5)	16 (14.5)	1 (0.9)	110	5.992
	女子	85 (73.3)	31 (26.7)		116	
	計	178 (78.8)	47 (20.8)	1 (0.4)	226	
中2	男子	99 (94.3)	6 (5.7)		105	25.865 *
	女子	69 (66.3)	35 (33.7)		104	
	計	168 (80.4)	41 (19.6)		209	
中3	男子	97 (86.6)	15 (13.4)		112	.040
	女子	98 (87.5)	14 (12.5)		112	
	計	195 (87.1)	29 (12.9)		224	
高1	男子	128 (88.9)	16 (11.1)		144	7.277 *
	女子	106 (76.8)	32 (23.2)		138	
	計	234 (83.0)	48 (17.0)		282	
高2	男子	106 (85.5)	18 (14.5)		124	4.575 *
	女子	91 (74.6)	31 (25.4)		122	
	計	197 (80.1)	49 (19.9)		246	
高3	男子	107 (91.5)	10 (8.5)		117	10.366 *
	女子	37 (72.5)	14 (27.5)		51	
	計	144 (85.7)	24 (14.3)		168	
総計	男子	1,119 (89.0)	138 (11.0)	1 (0.1)	1,258	51.135 *
	女子	965 (78.5)	260 (21.1)	5 (0.4)	1,230	
	計	2,084 (83.8)	398 (16.0)	6 (0.2)	2,488	

*<0.05

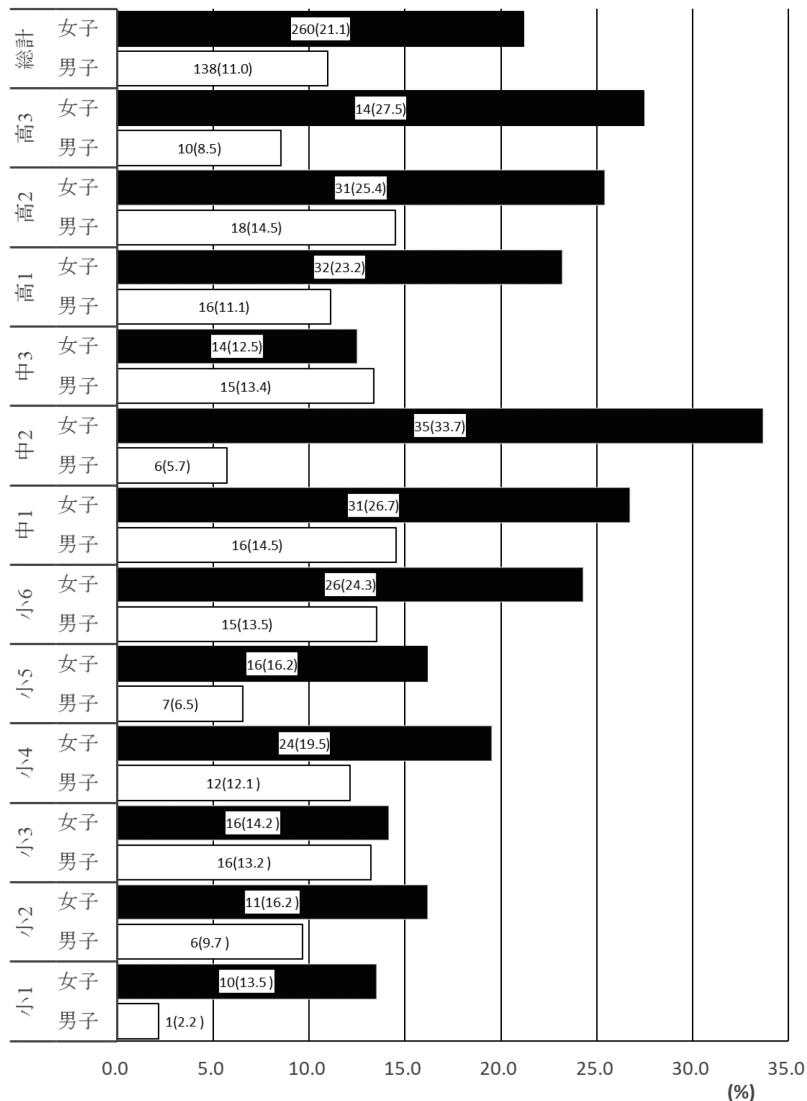


図3-1 『運動・スポーツ嫌い群』の学年別男女比

3.2 「体育」授業の好嫌及び得意不得意の実態

表3-2は、「体育」の好嫌及び得意不得意について、『体育好き群』と『体育嫌い群』にグループ化した結果を、学年、性別で比較したものである。なお、図3-2は、『体育嫌い群』のみを抽出しまとめたものである。

学年・性別の特徴としては、小学校4年生、5年生、中学校1年生、2年生において、『体育嫌い群』の割合は男子よりも女子のほうが高かった。

この他、女子は小学校3年生から中学校2年生にかけて、及び高等学校1年生から2年生にかけて『体育嫌い群』の割合が高くなる傾向がみられた。

男子については、小学校1年生の『体育嫌い群』の

割合において女子よりも高い結果であった。これは1年生女子の未回答者が多かったことに因るものではないかと考えられるが、他学年と比較すると高い値を示しており、特徴的な結果であった。

標本全体の特徴としては、男子よりも女子のほうが『体育嫌い群』の割合が高かった。

以上を踏まえたうえで、萩市の小学生から高校生の特徴として、各学年、性別ともに「体育」が好きと回答するものが多かったことが挙げられる。他方、運動やスポーツ、体育が嫌い或いは苦手と回答する傾向は男子よりも女子が高いことが判った。

表 3-2 「体育」授業の好嫌・得意不得意(学年別男女比)

学校/学年	性別	体育好き群(%)	体育嫌い群(%)	N.A(%)	計	χ^2 値
小1	男子	40 (87.0)	6 (13.0)		46	15.014 *
	女子	51 (68.9)	4 (5.4)	19 (25.7)	74	
	計	91 (75.8)	10 (8.3)	19 (15.8)	120	
小2	男子	59 (95.2)	3 (4.8)		62	.013
	女子	65 (95.6)	3 (4.4)		68	
	計	124 (95.4)	6 (4.6)		130	
小3	男子	112 (92.6)	8 (6.6)	1 (0.8)	121	3.795
	女子	98 (86.7)	15 (13.3)		113	
	計	210 (89.7)	23 (9.8)	1 (0.4)	234	
小4	男子	93 (93.9)	6 (6.1)		99	4.836 *
	女子	104 (84.6)	19 (15.4)		123	
	計	197 (88.7)	25 (11.3)		222	
小5	男子	102 (95.3)	5 (4.7)		107	5.506 *
	女子	85 (85.9)	14 (14.1)		99	
	計	187 (90.8)	19 (9.2)		206	
小6	男子	98 (88.3)	13 (11.7)		111	1.517
	女子	89 (82.4)	19 (17.6)		108	
	計	187 (85.4)	32 (14.6)		219	
中1	男子	98 (89.1)	12 (10.9)		110	7.210 *
	女子	89 (75.4)	29 (24.6)		118	
	計	187 (82.0)	41 (18.0)		228	
中2	男子	97 (92.4)	8 (7.6)		105	12.609 *
	女子	77 (74.0)	27 (26.0)		104	
	計	174 (83.3)	35 (16.7)		209	
中3	男子	100 (89.3)	12 (10.7)		112	1.415
	女子	96 (85.7)	15 (13.4)	1 (0.9)	112	
	計	196 (87.5)	27 (12.1)	1 (0.4)	224	
高1	男子	128 (88.9)	16 (11.1)		144	2.283
	女子	114 (82.6)	24 (17.4)		138	
	計	242 (85.8)	40 (14.2)		282	
高2	男子	105 (84.7)	19 (15.3)		124	3.311
	女子	92 (75.4)	30 (24.6)		122	
	計	197 (80.1)	49 (19.9)		246	
高3	男子	106 (90.6)	9 (7.7)	2 (1.7)	117	2.304
	女子	44 (86.3)	7 (13.7)		51	
	計	150 (89.3)	16 (9.5)	2 (1.2)	168	
総計	男子	1,138 (90.5)	117 (9.3)	3 (0.2)	1,258	45.162 *
	女子	1,004 (81.6)	206 (16.7)	20 (1.6)	1,230	
	計	2,142 (86.1)	323 (13.0)	23 (0.9)	2,488	

*<0.05

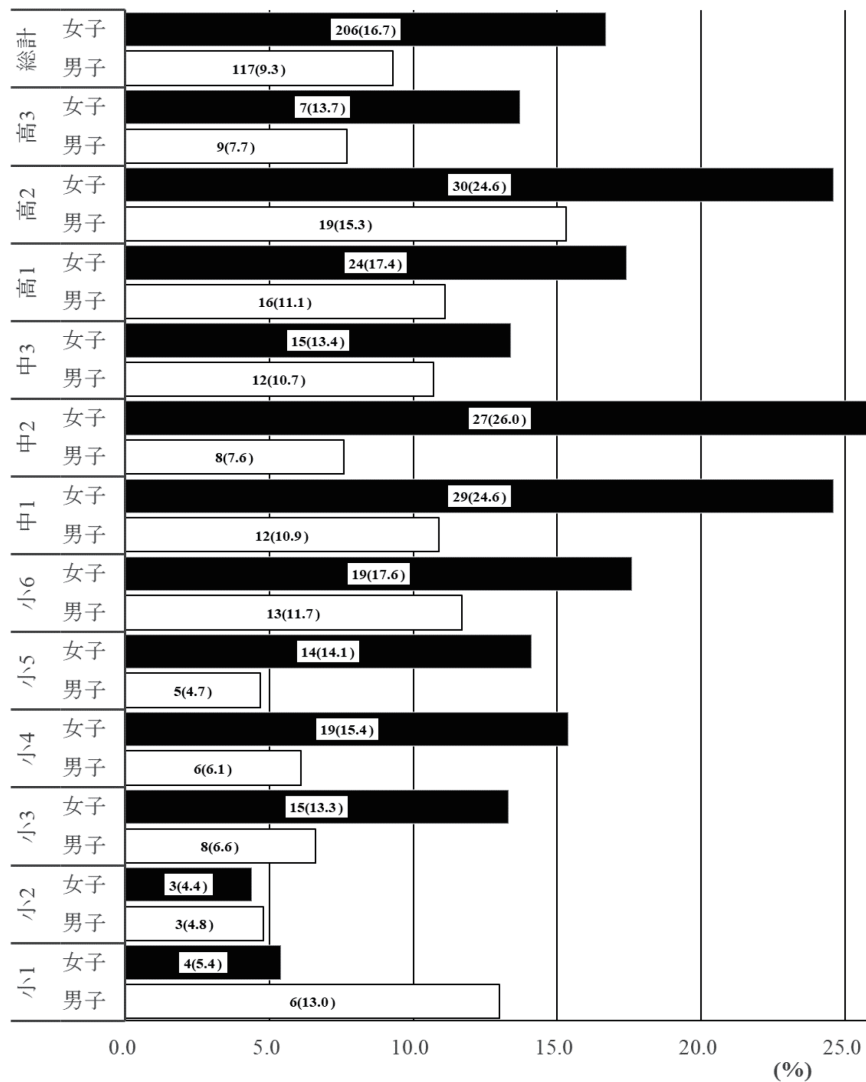


図3-2 『体育嫌い群』の学年別男女比

3.3 「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌の関連性

表3-3は、「運動・スポーツ」の好嫌（『運動・スポーツ好き群』『運動・スポーツ嫌い群』）と「体育」の好嫌（『体育好き群』『体育嫌い群』）のクロス集計結果を学年別にまとめたものである。

小学校1年生から高校3年生までの全ての学年において、『運動・スポーツ好き群』で且つ『体育好き群』の割合が高かった。

これらの結果から、各学年ともに9割を超える（小学校1年生については79.8%）児童・生徒は「運動・スポーツ」が好きであり且つ「体育」も好きであることが判った。なお、小学校1年生の値が他学年と比較

して低かった点については、これら2項目の質問についての意味がうまく理解できず、未回答であったことに因るものと考えられた。

続いて表3-4は、「運動・スポーツ」の好嫌（『運動・スポーツ好き群』『運動・スポーツ嫌い群』）と「体育」の好嫌（『体育好き群』『体育嫌い群』）のクロス集計結果を性別でまとめたものである。

この結果から、男子、女子ともに9割を超える児童・生徒は「運動・スポーツ」が好きであり、且つ「体育」も好きであることが判った。

表3-3 「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌(学年別)

学校/学年		体育好き群 (%)	体育嫌い群 (%)	N. A (%)	計 (%)	χ^2 値
小1	運動・スポーツ好き群 (%)	87 (79.8)	7 (66.4)	15 (13.8)	109 (100.0)	10.924 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	4 (36.4)	3 (27.3)	4 (36.4)	11 (100.0)	
	N.A (%)	(4.4)	(30.0)	(21.1)		
	計 (%)	91 (75.8)	10 (8.3)	19 (15.8)	120 (100.0)	
小2	運動・スポーツ好き群 (%)	109 (97.3)	3 (2.7)		112 (100.0)	7.561
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	14 (82.4)	3 (17.6)		17 (100.0)	
	N.A (%)	1 (100.0)	0		1 (100.0)	
	計 (%)	196 (95.4)	6 (4.6)		130 (100.0)	
小3	運動・スポーツ好き群 (%)	196 (97.5)	4 (2.0)	1 (0.5)	201 (100.0)	100.951 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	14 (43.8)	18 (56.3)		32 (100.0)	
	N.A (%)	(06.7)	1 (100.0)		1 (100.0)	
	計 (%)	210 (89.7)	23 (9.8)	1 (0.4)	234 (100.0)	
小4	運動・スポーツ好き群 (%)	183 (98.4)	3 (1.6)		186 (100.0)	106.849 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	14 (38.9)	22 (61.1)		36 (100.0)	
	N.A (%)	(7.1)	(88.0)		(16.2)	
	計 (%)	197 (88.7)	25 (11.3)		222 (100.0)	
小5	運動・スポーツ好き群 (%)	181 (98.9)	2 (1.1)		183 (100.0)	129.406 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	6 (26.1)	17 (73.9)		23 (100.0)	
	N.A (%)	(3.2)	(89.5)			
	計 (%)	187 (90.8)	19 (9.2)		206 (100.0)	
小6	運動・スポーツ好き群 (%)	174 (98.3)	3 (01.7)		177 (100.0)	127.334 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	12 (29.3)	29 (70.7)		41 (100.0)	
	N.A (%)	1 (100.0)	(6.4)	(90.6)	1 (100.0)	
	計 (%)	187 (85.4)	32 (14.6)		219 (100.0)	
中1	運動・スポーツ好き群 (%)	177 (99.4)	1 (0.6)		178 (100.0)	171.729 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	8 (17.0)	39 (83.0)		47 (100.0)	
	N.A (%)	2 (66.7)	1 (33.3)		3 (100.0)	
	計 (%)	187 (82.0)	41 (18.0)		228 (100.0)	
中2	運動・スポーツ好き群 (%)	165 (98.2)	3 (1.8)		168 (100.0)	137.484 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	9 (22.0)	32 (78.0)		41 (100.0)	
	N.A (%)	(5.2)	(91.4)		(19.6)	
	計 (%)	174 (83.3)	35 (16.7)		209 (100.0)	
中3	運動・スポーツ好き群 (%)	192 (98.5)	2 (1.0)	1 (0.5)	195 (100.0)	172.802 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	4 (13.8)	25 (86.2)		29 (100.0)	
	N.A (%)	(2.0)	(92.6)		(12.9)	
	計 (%)	196 (87.5)	27 (12.1)	1 (0.4)	224 (100.0)	
高1	運動・スポーツ好き群 (%)	231 (98.7)	3 (1.3)		234 (100.0)	188.011 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	11 (22.9)	37 (77.1)		48 (100.0)	
	N.A (%)	(4.5)	(92.5)			
	計 (%)	242 (85.8)	40 (14.2)		282 (100.0)	
高2	運動・スポーツ好き群 (%)	192 (97.5)	5 (2.5)		197 (100.0)	17.303 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	5 (10.2)	44 (89.8)		49 (100.0)	
	N.A (%)	(2.5)	(89.8)		(19.9)	
	計 (%)	197 (80.1)	49 (19.9)		246 (100.0)	
高3	運動・スポーツ好き群 (%)	141 (97.0)	2 (12.5)	1 (0.7)	144 (100.0)	80.535 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	9 (37.5)	14 (58.3)	1 (4.2)	24 (100.0)	
	N.A (%)	(6.0)	(87.5)	(50.0)		
	計 (%)	150 (89.3)	16 (9.5)	2 (1.2)	168 (100.0)	
総計	運動・スポーツ好き群 (%)	2,028 (97.3)	38 (01.8)	18 (0.9)	2,084 (100.0)	1426.804 *
	運動・スポーツ嫌い群 (%)	110 (27.6)	283 (71.1)	5 (1.3)	398 (100.0)	
	N.A (%)	4 (5.1)	2 (87.6)	(21.7)	6 (16.0)	
	計 (%)	2,142 (86.1)	323 (13.0)	23 (0.9)	2,488 (100.0)	

* < 0.05

表 3-4 「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌 (性別)

		体育好き群 (%)	体育嫌い群 (%)	N.A (%)	計 (%)	χ^2 値
男子	運動スポーツ好き群 (%)	1,094 (97.8)	23 (2.1)	2 (0.2)	1,119 (100)	634.101 *
	運動スポーツ嫌い群 (%)	44 (31.9)	93 (67.4)	1 (0.7)	138 (100)	
	N.A (%)		1 (100)		1 (100)	
	計 (%)	1,138 (90.5)	117 (9.3)	3 (0.2)	1,258 (100)	
女子	運動スポーツ好き群 (%)	934 (96.8)	15 (1.6)	16 (1.7)	965 (100)	753.649 *
	運動スポーツ嫌い群 (%)	66 (25.4)	190 (73.1)	4 (1.5)	260 (100)	
	N.A (%)	4 (80.0)	1 (20.0)		5 (100)	
	計 (%)	1,004 (81.6)	206 (16.7)	20 (1.6)	1,230 (100)	
総計	運動スポーツ好き群 (%)	2,028 (97.3)	38 (1.8)	18 (0.9)	2,084 (100)	1426.804 *
	運動スポーツ嫌い群 (%)	110 (27.6)	283 (71.1)	5 (1.3)	398 (100)	
	N.A (%)	4 (66.7)	2 (33.3)		6 (100)	
	計 (%)	2,142 (86.1)	323 (13.0)	23 (0.9)	2,488 (100)	

* < 0.05

続いて、図 3-3 は、「運動・スポーツ」が嫌いで（運動・スポーツ嫌い群）且つ「体育」も嫌い（体育嫌い群）と回答した者のみを抽出し、学年、性別で比較したものである。

この結果から伺えることとして、(1)小学校 2 年生を除く全ての学年において、性別では女子のほうが「運動・スポーツ」嫌いで且つ「体育」嫌いである傾向が高いこと、(2)前者の傾向は小学校 3 年生から中学校 2 年生にかけて、及び中学校 3 年生から高等学校 2 年生にかけて高まっていること、(3)中学校 3 年生、及び高等学校 3 年生において、「運動・スポーツ」嫌いで且つ「体育」嫌いが減少していることが挙げられる。

(3)の理由については、別途質問した項目の回答結果から、好きな種目があり、うまくするのが嬉しい、勝負に勝つのが好きと回答した割合が他学年と比較して高かったことが挙げられる。また、嫌いな理由としては体を動かすのが嫌いと回答した割合が他学年と比較して低かったこと等が挙げられるが、理由の分析に

ついては次研究の課題としたい。

続いて、表 3-5 は、「運動・スポーツ」の好嫌、または「体育」の好嫌の質問に未回答であった者（N.A）、または双方に未回答であった者を除きまとめたものである。なお、()内の値は、当該回答者 2,459 名を 100%とした場合の割合を記載している。

特筆すべき点としては、(1)「運動・スポーツ」が嫌いな者で、且つ「体育」も嫌いと回答した児童・生徒が 11.5%いること、(2)「運動・スポーツ」は好きだが「体育」は嫌いと回答する児童・生徒（1.5%）よりも、「体育」は好きだが「運動・スポーツ」は嫌いと回答した児童生徒（4.5%）のほうが高い値を示していたことである。

吉川らによると¹⁰⁾、「体育」は好きだが「運動・スポーツ」は嫌いと回答する児童・生徒よりも、「運動・スポーツ」は好きだが「体育」は嫌い或いは不得意が多く存在すると報告されているが、この度の萩市小・中・高等学校の調査結果は全く正反対であった。

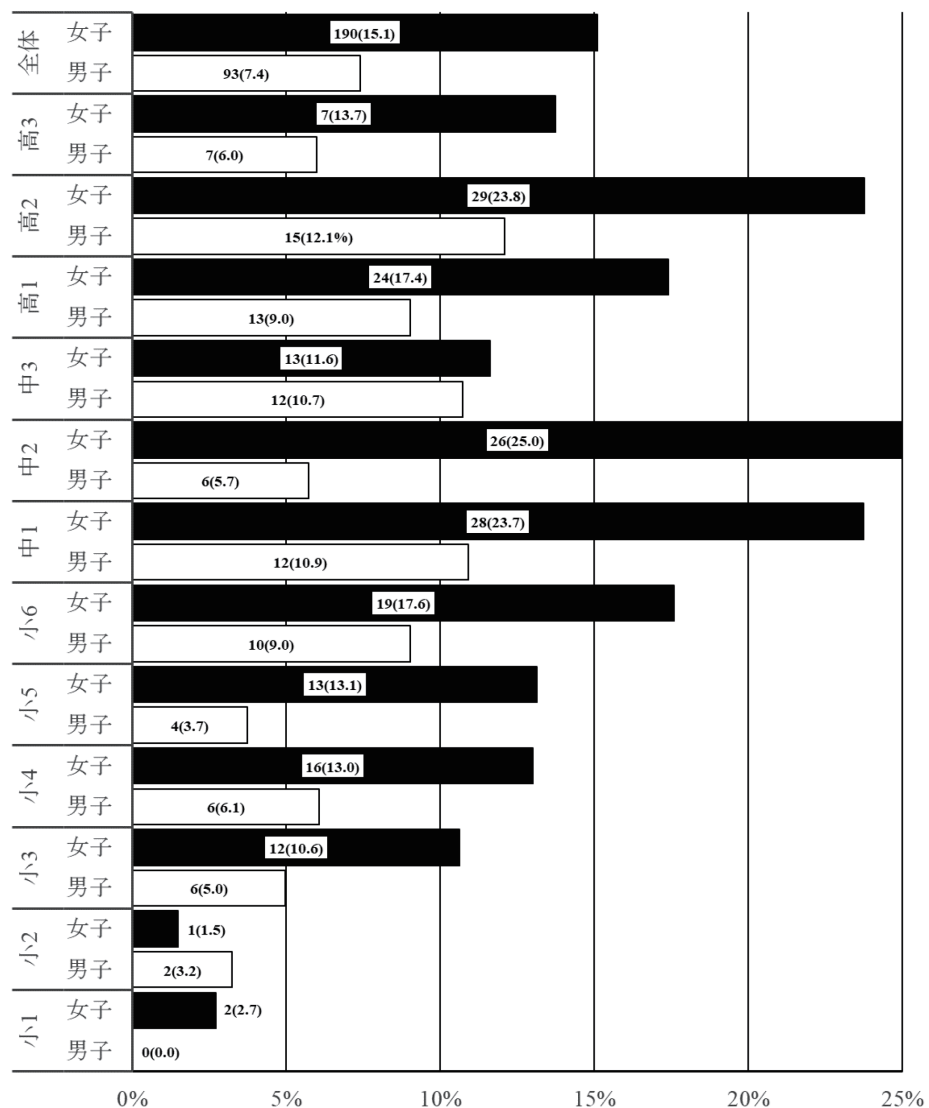


図3-3 「運動・スポーツ」嫌いで「体育」嫌いな実態
(学年別男女比)

表3-5 「運動・スポーツ」と「体育」の好嫌(総計)

	体育好き群	体育嫌い群	計
運動・スポーツ好き群	2,028	38	2,066
(%)	(82.5)	(1.5)	(84.0)
運動・スポーツ嫌い群	110	283	393
(%)	(4.5)	(11.5)	(16.0)
計	2,138	321	2,459
(%)	(86.9)	(13.1)	(100)

4 まとめ

本研究は、山口県萩市における小学生から高校生までの延べ12学年を対象とし、「運動・スポーツ」に対する好嫌と、「体育」に対する好嫌、得意不得意の実態について、横断的に明らかにすることを目的とし、先行研究において導き出されている傾向、即ち、(1) 運動やスポーツ、体育が嫌い或いは苦手と回答する傾向は学年が進行するにつれて増加傾向にある、(2) (1)の傾向は男子よりも女子に多くみられる、(3) 運動やスポーツが嫌いよりも体育嫌いが多く存在している、(4) (3)の傾向は男子よりも女子に多くみられるという4点について、萩市児童・生徒の傾向を明らかにすることを課題としていた。

本研究をまとめると次のとおりである。

運動・スポーツ嫌いは、女子において小学校低学年(1年生から2年生)、中学年(3年生から4年生)、高学年(5年生から6年生)、及び、中学校1年生から2年生にかけて、さらに高等学校においては1年生から2、3年生になるにつれ、その割合が高くなる傾向がみられたが、男子にはその傾向はみられなかった。

体育嫌いについては、女子において小学校5年生から中学校2年生にかけて、及び高等学校1年生から2年生にかけてその割合が高くなる傾向がみられたが、男子にはその傾向はみられなかった。

体育嫌いよりも運動・スポーツ嫌いが高く(約3倍)、全国的な傾向とは異なっていた。性別の傾向としては、運動・スポーツ嫌い、体育嫌いともに、男子よりも女子に多くみられた。

その他、山口県萩市における小学校から高等学校までの特徴として、運動やスポーツが好きで且つ体育も好きな児童・生徒が8割以上に及んでいることが挙げられる。半面、運動やスポーツも嫌いで体育も嫌いな児童・生徒が10%を超えていることは今後検討していかなければならない事項であると考えられる。

今後の課題として、本研究の中では取り上げていな

い残りの調査内容である、運動・スポーツや体育の好嫌の理由、運動・スポーツの週実施時間について今後まとめ、本研究で得られた結果との関連性について更なる分析に努めたい。

5 謝辞

本研究の調査の実施にあたり、協力頂きました萩市内の小学校3校(児童数:1,334名)、中学校2校(生徒数:715名)、高等学校2校(生徒数:804名)、延べ2,853名の児童・生徒と、各学校長はじめ教職員の皆様に感謝申し上げます。

[註]

註1) (新) 小学校学習指導要領は、2017(平成29)年に告示、改訂、2020(平成32)年度より全面实施される。

(新) 中学校学習指導要領は、2017(平成29)年に告示、改訂、2021(平成33)年度より全面实施される。

(新) 高等学校学習指導要領は、2018(平成30)年に告示、改訂、2022(平成34)年度より年次進行で実施される。

註2) 2015(平成27)年の国税調査結果によると、全国792市の内、萩市の人口は525位。

註3) 質問紙には次のように記した。

①0分

②1~70分(例:1日10分×7日間=70分)

③71分~210分(例:1日30分×7日間=210分)

④211分~420分(例:1日60分×7日間=420分)

⑤421分以上

[参考文献]

- 1) 文部科学省 (2008) 「政策・審議会：審議会情報：中央教育審議会：幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について (答申)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/oushin/1216828.htm (アクセス日 2018.11.1)
- 2) 文部科学省編 (2008) 『小学校学習指導要領解説 (体育編)』 東洋館出版社
- 3) 文部科学省編 (2008) 『中学校学習指導要領解説 (保健体育編)』 東山書房
- 4) 文部科学省編 (2009) 『高等学校学習指導要領解説 (保健体育編・体育編)』 東山書房
- 5) 文部科学省 (2018) 「政策・審議会：審議会情報：中央教育審議会：幼稚園、小学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (答申) (中教審第 197 号)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/oushin/1380731.htm (アクセス日 2018.11.1)
- 6) 文部科学省編 (2018) 『小学校学習指導要領解説 (体育編)』 東洋館出版社
- 7) 文部科学省編 (2018) 『中学校学習指導要領解説 (保健体育編)』 東山書房
- 8) 文部科学省 (2018) 「教育：小学校、中学校、高等学校：学習指導要領「生きる力」新学習指導要領 (本文、解説、資料等)：学習指導要領等：高等学校学習指導要領解説：保健体育編・体育編」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm (アクセス日 2018.11.1)
- 9) 萩市 (2018) 「組織で探す：企画政策課：萩市の人口 (毎月月末現在)」
<http://www.city.hagi.lg.jp/soshiki/12/1085.html> (アクセス日 2018.11.1)
- 10) 吉川麻衣・山谷幸司・笹生心太 (2012) 「「運動嫌い」「体育嫌い」の実態と発生要因に関する研究：小学生・中学生・高校生における「運動嫌い」と「体育嫌い」の関連性に着目して」『仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集』 13, 107-115
- 11) 熊谷浩明・池田拓人 (2013) 「小学校教師の体育好き・体育嫌い：子どもを体育嫌いにさせる教師行動との関連性」『和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要』 23, 47-55
- 12) 橋本健夫・川越明日香・谷山麻香 (2012) 「児童の学習意欲の喚起と授業実践」『長崎大学教育学部紀要 (教科教育学)』 52, 11-19
- 13) 大矢隆二ほか (2011) 「小学校体育授業に対する好き嫌いとは運動意欲の関連性および授業後の感想文のテキストマイニング」『日本教科教育学会誌』 34(1), 9-16
- 14) 林園子 (2013) 「高校生の体育授業と運動・スポーツの意識に関する研究」『法政大学体育・スポーツ研究センター紀要』 31, 57-65
- 15) 東健司 (2018) 「小学校高学年児童における運動の楽しさ：体育嫌いな児童に着目して」『岐阜大学教育学部研究報告 (自然科学)』 42, 77-82
- 16) 山本彩未 (2015) 「大学生の「体育」に関する意識調査：小学校教員養成課程に在籍する大学生を対象として」『中部大学現代教育学部紀要』 7, 45-51
- 17) 大矢隆二ほか (2011) 「小学校体育授業に対する好き嫌いとは運動意欲の関連性および授業後の感想文のテキストマイニング」『日本教科教育学会誌』 24(1), 9-16
- 18) 橋本健夫・川越明日香・谷山麻香 (2012) 「児童の学習意欲の喚起と授業実践」『長崎大学教育学部紀要 (教科教育学)』 52, 1-19

Research on the Attitude of Students from Elementary Schools, Junior High Schools, and High Schools Towards “Sports” and “Physical Education” (1) - Focusing on the Relationship between Likes and Dislikes to “Sports” and Those to “Physical Education” -

Takaharu KUNIKI Shohei TAWARA

Abstract :

This research was conducted in Hagi, Yamaguchi prefecture, where 47,862 people lived (Sep. 2018). The population in the city is small compared to the average of that in Japan, and the number has been radically dropping. Meanwhile, the city is trying hard on education and community activities thorough various cultural and sports events all year.

This paper aims to clarify likes and dislikes to and the performance of "sports" and "physical education" covering students from 12 different grades from elementary schools to high schools. More precisely, this research aims to clarify the difference between the tendency of students in Hagi and that in other areas.

The author conducted questionnaires to 2,853 students from public schools in Hagi; 3 elementary schools (1,334 students), 2 junior high schools (715 students), and 2 high schools (804 students), and 2,488 students (89 percent) answered; 1,131 elementary students (84.8 percent), 661 junior high school students (92.4 percent), and 696 high school students (86.6 percent).

The result shows the fact below.

This research found that the ratio of students answering "like to both sports and physical education" reached more than 80 percent. On the other hand, the fact that more than 10 percent of students answered "dislike to both sports and physical education" should be considered and solved in the future.